



其の四 ネット社会の心得

インターネットの便利さの裏側には知っておかなければならない危険性も。ネットを楽しく安全に使うための基本的な心得を伝授します。

知っておきたい用語解説

インターネットショッピング

インターネットを使って買い物をすることです。ネットを見て品物を選び購入ボタンを押すと、宅配業者が商品を届けてくれます。音楽配信のようにデータやソフトをネットで入手できるものもあります。24時間いつでも買い物ができる、検索機能を使い複数のサイトで商品の価格やサービスを比較できるなどのメリットがある一方、「届いた商品が思っていたものと違って」「お金を払ったのに商品が届かない」「1回だけ買うつもりが定期購入だった」というトラブルもあります。また、インターネットショッピングにはクーリング・オフ(4ページ参照)が適用されません。こうしたデメリットや留意点があることもよく考えて、信頼のできるお店を選びましょう。



このマークは、インターネットをはじめ通信販売において、広告表現の適正化、アフターケアの徹底などを評価し、適正と認められた事業者が表示できるマークです。商品を購入する際の目安となります。

インターネットオークション・フリマアプリ

インターネットを使って個人や企業が自由に商品を出品したり、出品した商品を不特定多数を対象に競売にかけたりする仕組みです。誰でも簡単に利用できる手軽さと、店頭にはない掘り出し物が探せること、欲しい商品を競り落とす楽しさなどから人気を集めています。一方で、代金を支払ったのに商品が届かない、届いた商品が不良品だったなどのトラブルも増えています。利用する際は、購入の前に支払い方法やサイト事業者が提供している出品者の評価などをよく確認することが大切です。

フィルタリング

元々の意味は濾過(ろか)すること。条件にあわせてフィルターを設定することで、情報を絞り込むことを言います。インターネットで閲覧するページに有害なものがないかを判断しアクセスを制御することを「ウェブフィルタリング」と言い、携帯電話でも同じようなサービスが提供されています。また迷惑メールやウイルスメールを選別して、削除したり受信拒否する機能もフィルタリングの一つです。

災害用伝言ダイヤル・災害伝言板

大きな災害が発生すると電話が被災地に集中し、つながりにくくなります。そのような場合に備えて「災害用伝言ダイヤル」や「災害用伝言板」というサービスがあります。「災害用伝言ダイヤル」は、「171」に電話をかけることで、安否状況を音声で録音・再生することができます。「災害用伝言板」

著作権・肖像権

文章・音楽・写真・絵などのあらゆる創作物には、それを作った人に「著作権」という権利があります。また人は誰にでも、本人の承諾なしに無断で写真やビデオに撮られたり、それらを無断で公表されたり、利用されたりすることのできないよう主張できる「肖像権」という権利があります。これらを使用する場合は、原則的に許諾が必要なことを覚えておき、インターネットで情報発信する際は、この2つの権利を侵害していないか注意しましょう。

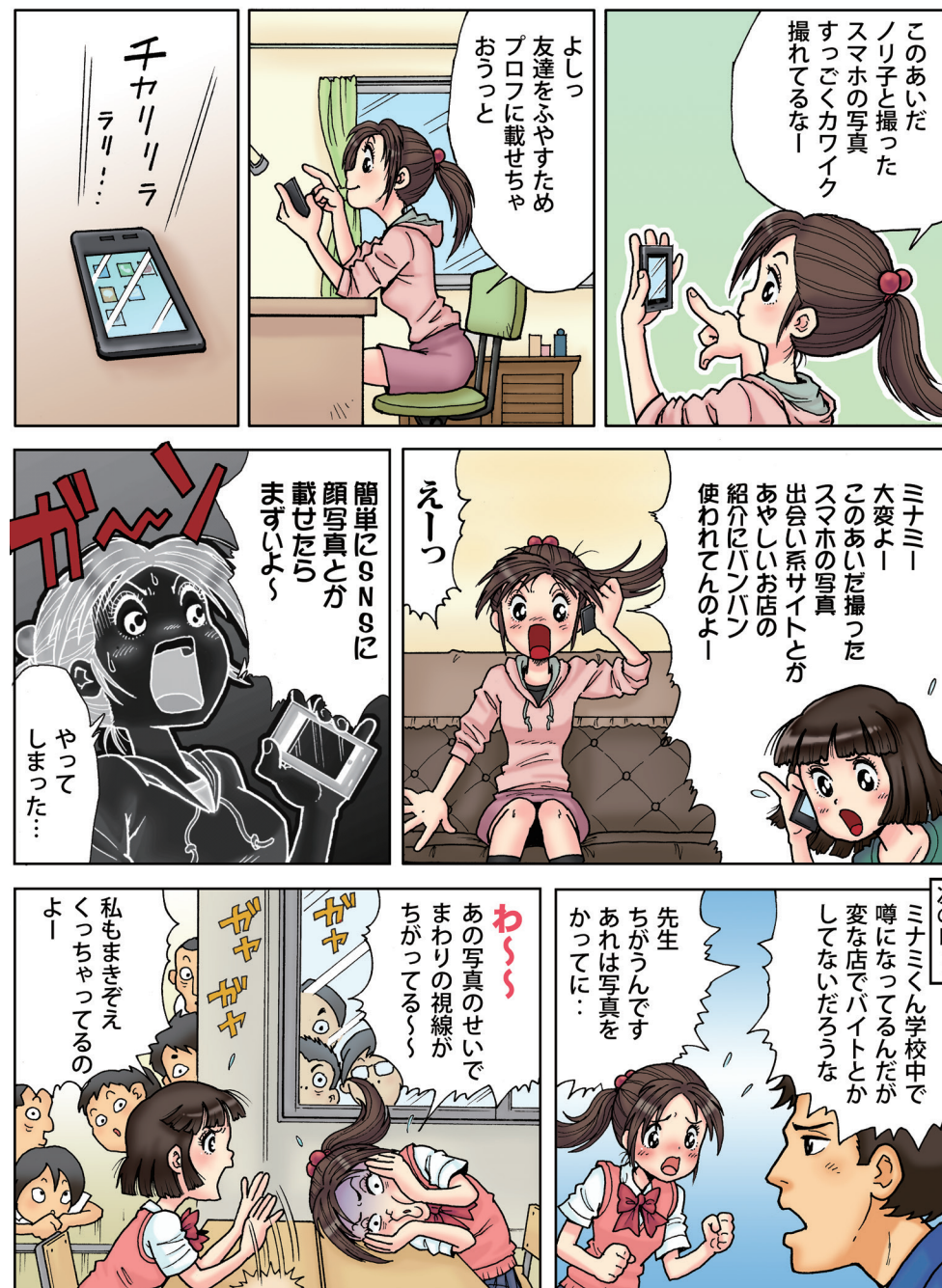
セキュリティ

インターネットの世界では、様々な情報が入っているサーバやパソコンがつながって巨大なネットワークをつくっています。ただネットにつながっているのは、親しい友人などだけではありません。残念ながらネットを悪用して不特定多数の人に攻撃をしようとたくらんでいる人にもつながっているのです。ネット上での攻撃には、ウイルス、迷惑メール、不正侵入などがあり、様々な被害も起きています。そのような被害にあわないために対策を取ることがインターネットのセキュリティです。ネットを利用する際は、悪意のある第三者に狙われる危険性があることを知った上で、適切な対策をして、安全にインターネットを楽しみましょう。

コミュニティサイト

共通する興味や関心を持つ人たちが集まり、交流できるサイトのこと。SNSやゲームサイトが主で、掲示板やチャット、ブログなどの機能を使って、コミュニケーションが楽しめます。仲間同士で交流が深まったり、知り合いが増えたりといった良い面もたくさんありますが、心ない書き込みで傷つき傷つけてしまう、といったことも少なくありません。また軽い気持ちで載せた顔写真や個人情報を悪用されるトラブルも発生しています。ネットで個人情報を公開するのはとても危険です。ネットで親しくなった相手に個人情報を教えることもやめましょう。最近ではコミュニティサイトで仲良くなって商品の勧誘をする手口や、事件に巻き込まれる例も増えています。顔の見えないネットの世界ではいい人に思えても、相手の本当の姿は分かりません。実際に会おうと誘われた場合でも断るのが賢明です。

「壁に耳あり障子に目あり」。
善悪混淆のネットの世界では、
個人情報扱いの扱いは慎重にせよ！



其の五

もったいないの心得

地球の資源は無尽蔵にあるわけではありません。限りある資源を大切に使い、社会の発展を持続させていくための基本的な心得を伝授します。

知っておきたい用語解説



DATE na Kurashi manual

持続可能な社会

環境を壊すことなく社会の発展性を維持していける、バランスの取れた社会を目指すという考え方です。これまで私たちは様々な資源やエネルギーを活用して、経済の発展と豊かな暮らしを追求してきました。しかし地球上の資源には限りがあります。このままでは、私たちの暮らしを支える資源は枯渇してしまいます。また、石油などの化石燃料を燃やすと二酸化炭素を排出し、これが地球を暖める温室効果ガスとして地球温暖化を引き起こす原因と考えられています。さらに、物を簡単に捨ててしまうなど、資源の無駄づかいやごみ問題が環境へ悪影響を及ぼしています。一方で、資源やエネルギーを極端に制限してしまうと、私たちの暮らしは成り立たなくなり、経済の発展は難しくなります。そこで、これまで私たちが豊かな暮らしのみを追求してきたことを反省し、限りある資源を有効に活用しながら、環境と調和の取れた社会の発展を目指す「持続可能な社会」という考え方です。

循環型社会

限りある資源を持続可能な形で循環させながら利用していく社会のことです。私たちはいま豊富な物に囲まれた快適な生活をしています。しかしそのような快適な生活が、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会を生み出してしまいました。このままでは日本はごみであふれてしまいます。そこで、このような社会のあり方を根本的に変えて、地球から採取する資源をできるだけ少なくし、リサイクルなどを進めて有効に使うことで、廃棄されるものを最小限におさえる社会へ変えていこうというのが「循環型社会」という考え方です。このような社会を実現していくためには、国や企業だけではなく、私たち一人ひとりが自分の生活を見直す必要があります。できるかぎり無駄な商品は買わない、ひとつのものを長く使うことで、生産や消費を抑えてごみを減らす、廃棄処分には分別を行い、再生できるものは資源として再利用するなど、まずできることから始めることが大切です。

食品ロス

最近ニュースなどでもよく目にする「食品ロス」は、まだ食べられるのに捨てられている食品のことです。世界的な問題であり、日本でも年間約472万tの食品ロスが発生しています。日本国民1人当たり換算すると、毎日おにぎり約1個分(約103g)に近い量のご飯を捨てている計算です。買い物をするときは使い切れる分だけ購入したり、外食の際は食べきれない量を注文するなど「モットイナイ」を意識して、日々の生活の中でできることを一人一人が考え、行動に移すことが大切です。

3R

私たちが日常生活で消費するさまざまな製品は、つくるときも、ごみとして処分されるときも、限りある資源やエネルギーを大量に使い、環境に負荷を与えています。そこで最近ではみんなが「物の使い捨ては環境にやさしくない」ということに気づき、ごみを減らし、環境に配慮した生活をしようとしています。そんなエコライフを実践するためのキーワードが、「Reduce (リデュース) ごみの発生を減らす」「Reuse (リユース) 繰り返し使う、再利用する」「Recycle (リサイクル) 資源として再び利用する」の3つの頭文字をとった「3R (スリーアール)」という考え方です。

エコライフのためのキーワード

Reduce	Reuse	Recycle
リデュース	リユース	リサイクル
ごみを減らす	繰り返し使う	資源として活用する

海洋プラスチックごみ問題

プラスチックは軽くて加工しやすいことから、私たちの生活のいろいろなところで使われていますが、生ごみや紙と違い、どんなに小さくなくても、分解されずに自然界に長くとどまり続けます。ポイ捨てや屋外に放置されたプラスチックごみが雨風により河川を通じて海に流れ出ることで、海を汚し、生き物たちが傷つけられ、漁業に被害を与えるなどの問題を起こしています。プラスチックを全く使わずに生活することは難しいですが、まずは使い捨て(ワンウェイ)プラスチックをなるべく使わないなど、できることから始めてみませんか。

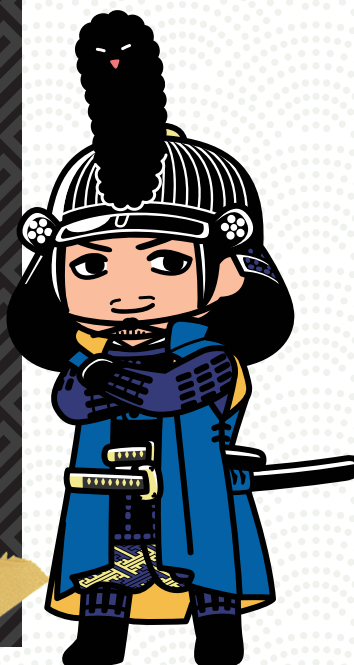
1人1日 24グラムの減量に挑戦!

仙台市では、ごみの減量とリサイクルを進めるための目標を設定し、市民の皆さんにごみの減量と分別を呼び掛けています。皆さんが出す家庭ごみは、1人1日400g以下が目標です。令和5年度は1人1日当たり424gだったので、皆さん一人ひとりが1日24gずつ減らすことが、目標達成のカギです。おやつに食べたお菓子の紙箱やプラスチックの容器・包装を、「雑がみ」や「プラスチック資源」に分別したり、食事を残さず食べるなど、毎日の小さな積み重ねが大きな力になります。あなたも友達や家族と一緒に、ごみ減量に取り組んでみませんか?

ごみ減量・リサイクル推進キャンペーンキャラクター ワケルくん



分別が足りぬ。
「捨てればごみ、分ければ資源」を心がけ、
もっと環境を大切にしようのじゃ!





其の六 消費で世直しの心得

消費が社会を動かす力を自覚し、消費を通じてよりよい社会を築いていくための基本的な心得を伝授します。

知っておきたい用語解説

消費者市民社会

消費が社会に与える影響力を自覚し、その力を使って、社会をよりよい方向に変えていこうという考え方です。私たちが何かを購入することは、それがいいという意思表示であり、それを提供している事業者を選択したとも言えます。これは自分の意志を表明する「投票」と似ています。投票が集まった商品は、さらに生産されるようになり、次にどのような商品が作られるかに影響を与えます。つまり、私たちの消費行動は、社会を動かす力を持っているのです。あなたの使うお金には、誰かを幸せにする力があります。例えば、環境に配慮した商品を選ぶことは地球環境を考える企業を育て、地元で採れた野菜を買うことは、地元の農家を応援することにつながります。このように、私たちの消費行動によって、社会がよりよい方向に改善されていくのです。そのためには、私たち消費者一人ひとりが、自分の幸福だけでなく、家族や地域、地球全体のことに意識を向けた消費行動をすることが大切です。

消費者教育推進法

学校や社会で消費者教育を行うことを国や自治体の責務とし、消費者が消費行動を通して、社会の発展と改善に積極的に参加していく「消費者市民社会」を推し進めていこうという理念を掲げています。

フードマイレージ

食料を輸送するためには、燃料(エネルギー)が必要です。そこで食料を輸入してから、消費者の口に入るまでに、どれくらいの距離を運ばれてきたのかを数字で表したのが「フードマイレージ」です。主に輸入食料に応用され、日本は他の国に比べると最も高い数値を示しています。これは、日本で大量に消費される大豆や小麦、飼料などが、遠く離れたアメリカなどの諸外国から多く輸入されているためです。そこでこれからは、国内の食料の自給率を高め、なるべく近くで生産された食料を食べることで、輸送に必要なエネルギーや、燃料の消費に伴う環境負荷を減らすことが必要だと考えられています。

地産地消

「地産地消(ちさんちしょう)」とは、その地域で作られた農産物・水産物を、なるべくその地域で消費しようという考え方です。上で説明したフードマイレージを削減することで、エネルギーの無駄づかいによる環境への負荷を減らせるだけでなく、食料自給率のアップにもつながると期待されています。ほかにも、消費者と生産者の距離が近いので、旬の食べ物が新鮮なうちに食べられる、地域に対する愛着が深まり、その土地の食材や食文化に対する関心が高まる、地域で頑張っている生産者への応援になる…といった様々なメリットが考えられます。

フェアトレード

日本では開発途上国で生産された日用品や食品を安価で買うことができますが、その商品を生み出すために、現地の生産者への支払いや労働者の賃金が低く抑えられていたり、小さな子が学校にも行けずに働かなければならなかったりという問題が起っています。買う側には見えませんが、安さを維持するために、最も弱い立場の人たちが不当な扱いを受けている現実もあるのです。「フェアトレード(公平貿易)」とは、そういった状況を改善するために、途上国で作られたものを、適正な価格で継続的に取引することによって、立場の弱い途上国の生産者や労働者の生活改善を目指そうという取り組みです。



国際フェアトレード
認証ラベル

エシカル消費

人や社会・環境に配慮して消費する行動を「エシカル(倫理的)消費」といいます。環境に配慮する「エコ消費」、開発途上国を支援する「フェアトレード」、地域活性化につながる「地産地消」など、お金の使い方によって社会を良い方向に変えていこうとする考え方です。東日本大震災をきっかけに、買い物によって被災地を支援する「応援消費」への関心が広がりました。これもエシカル消費のひとつです。誰によってどのように作られたのかということや、消費するだけでなく生産から廃棄までの過程にも目を向け、考えて商品を選択することが消費者市民社会にもつながります。

SDGs

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)のことです。「誰一人取り残さない」という理念のもと、経済、社会環境をめぐるさまざまな課題に国際社会全体で取り組むため、2030年の達成を目指して17の目標と169のターゲットが定められています。消費生活に関連する「目標12 つくる責任 つかう責任」では、資源を無駄にしないこと、廃棄物の削減・再利用・再生利用を進めること、食品ロスを削減することなどに取り組んでいます。「エシカル消費」もSDGsの達成に役立つ消費行動です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



消費とはその商品への「投票」じゃ。
どのような社会を望むか？
即ちそれが商品選びにも関わってくるのじゃ！

